

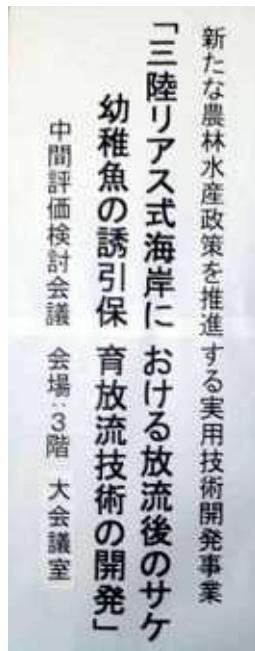
「誘引保育放流技術の開発」中間評価検討会の開催

3月11日に発生した東日本大震災により途絶えていた実用技術開発事業「三陸リアス式海岸における放流後のサケ幼稚魚の誘引保育放流技術の開発」の検討会を10月20日に東北区水産研究所宮古仮事務所で開催しました。この会議には、チームメンバーのほか、研究の推進をご支援していただいている山田町、(社)岩手県さけ・ます増殖協会および三陸やまだ漁業協同組合の皆様にもご出席いただきました。

会議に先立ち、今回の津波によってお亡くなりになった三陸やまだ漁協の故 古館治美業務部長に哀悼の意を表し、一分間の黙祷をいたしました。古館部長にはサケ幼稚魚の採集など研究推進にあたって多大なるご協力を賜りました。謹んでご冥福をお祈り致します。

さて、会議では、外部評価委員から、サケは東北復興の重要種であり、プロジェクト研究の成果を活用してさらなる研究の発展を期待するとの講評もあり、これまでの研究成果を整理するとともに、中間評価資料の作成方針および今後の研究の進め方について活発な討議を行いました。

水産総合研究センターでは、既に被災したふ化場の復興に向けて北海道区水産研究所 業務支援課を中心とする「さけますふ化放流チーム」が支援活動を実施しているところ、我々のチームも、施設費、事業運営費を軽減し、必要とする労力が少ない新たな放流技術を開発して復興に貢献したいと考えています。



22059:三陸リアス式海岸における放流後のサケ幼稚魚の 誘引保育放流技術の開発

背景

- ・90年代以降サケ来遊数の減少
- ・海中飼育放流数の減少
- ・東日本大震災



研究内容

施設費・コスト
作業労力
病気の発生

新しい放流方法の開発

回帰(生残)率が高く
安価
労力が少ない
病気の発生が少ない

中課題1 誘引保育放流技術の開発

～稚魚の生理・生態に即した放流技術を開発～

- (1) 誘引施設の開発と設置
- (2) 放流サイズ及び給餌技術の開発
- (3) 誘引保育尾数の推定技術の開発
- (4) 誘引保育個体への標識技術の開発

中課題2 誘引保育放流の有効性の評価

～河川放流、海中飼育放流、誘引保育放流の生理生態・成長・生残の比較～

- (1) サケ幼稚魚の天然餌料利用実態の把握
- (2) サケ幼稚魚の生理的变化の比較
- (3) サケ幼稚魚の成長の比較
- (4) サケ幼稚魚の減耗様式の比較